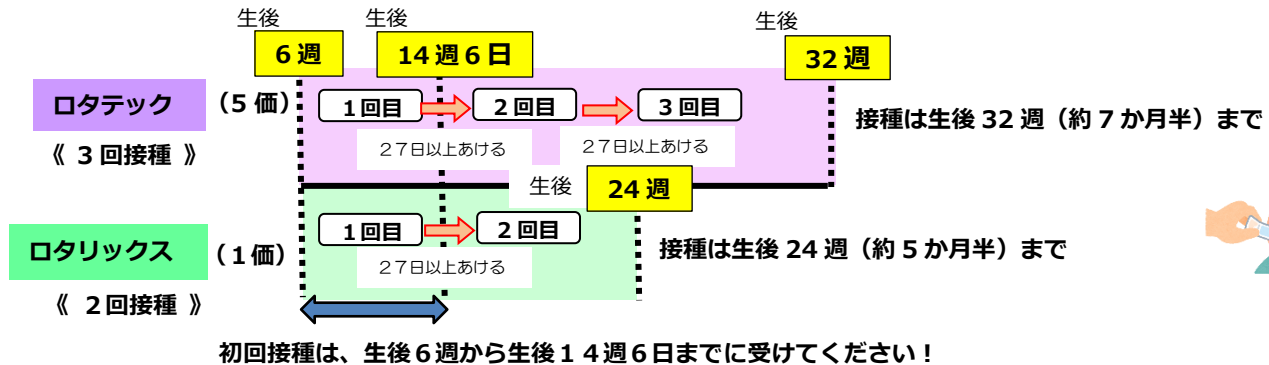


ロタウイルス感染症予防接種について

令和2年10月1日から、「ロタウイルスワクチン」は予防接種法に基づく「定期予防接種」になりました。

▶最初に受けたワクチンと同じ種類を接種してください。

ロタウイルスワクチンには2種類あり、同様の効果があります。2つのワクチンは接種回数が異なります。



●ロタウイルス感染症とは？

ロタウイルスは、10個～100個くらいのウイルスが口から入ることで感染します。ロタウイルスは、ロタウイルス胃腸炎の患者の便に大量に含まれています。患者の便を処理した後、十分に手洗いをして、手や爪に数億個のウイルスが残っていることがあり、ロタウイルスがついた手などから感染が広がります。

●ロタウイルスに感染するとどのような症状がでる？

ロタウイルスは、乳幼児の急性重症胃腸炎の主な原因ウイルスです。ロタウイルスに感染すると、水のような下痢や嘔吐が繰り返し起こり、その後、重い脱水症状が数日間続くことがあります。発熱や腹部の不快感などもよくみられます。合併症として、けいれん、肝機能異常、急性腎不全、脳症、心筋炎などが起こることがあり死に至る場合もあります。

●ロタウイルス胃腸炎とはどのようなもの？

ロタウイルス胃腸炎は、乳幼児期(0歳～6歳ころ)にかかりやすい病気です。ロタウイルスは感染力が強く、ごくわずかなウイルスが体内に入るだけで感染します。5歳までにはほぼすべての子どもがロタウイルスに感染すると言われています。大人はロタウイルスの感染を何度も経験しているため、ほとんどの場合症状がでません。しかし乳幼児は激しい症状が出る事が多く、特に初めて感染するときに症状が強くなります。主な症状は、水のような下痢、吐き気、嘔吐、発熱、腹痛です。脱水症状がひどくなると点滴が必要になったり、入院が必要になったりすることがあります。5歳までの急性胃腸炎の40～50%前後はロタウイルスが原因です。

●ワクチンについて

ロタウイルス胃腸炎は初回感染時の症状が最も重く、2回目以降の感染は症状が軽くなります。ロタウイルスワクチンは、ロタウイルス胃腸炎の重症化を予防することが目的のワクチンで、接種することにより、ロタウイルス胃腸炎による入院患者を約70%～90%減らすことができたことと報告されています。

ロタウイルスワクチンは2種類あり、どちらも生ワクチン(弱毒化したウイルス)で、飲むワクチンです。ワクチンの種類によって接種回数が異なります。また、途中からワクチンの種類を変更することはできませんので、最初に接種したワクチンを2回目以降も接種します。

月齢が進むと腸重積症にかかりやすくなります。できるだけ腸重積症の起こりにくい時期に接種していただくために、初回は生後2ヵ月～生後14週6日までに接種します。生後15週0日以降の接種はおすすめしていません。

●ロタウイルスワクチンの副反応

ロタウイルスワクチンの副反応として、腸重積症、発熱、下痢、便秘、食欲不振、嘔吐、胃腸炎などの症状が出る場合があります。また、まれに重篤な副反応としてアナフィラキシー(発疹、舌の腫脹など)があらわれることがあります。特に、ワクチン接種後1～2週間は腸重積症に注意が必要です。

●腸重積症について

腸重積症は、腸の一部が隣接する腸管にはまり込む病気です(図参照)。腸の血流が悪くなることで腸の組織に障害を起こすことがあるため、速やかな治療が必要です。ワクチン接種から1～2週間くらいまでの間、腸重積症のリスクが通常より高まると報告されています。

腸重積症の症状としては以下のものがあり、これらの症状が1つでも見られた場合は、速やかに医療機関を受診しましょう。腸重積症はロタウイルスワクチンの接種にかかわらず、乳幼児がかかることのある疾患で、まれな病気ではありません。



- 突然激しく泣く
- 機嫌が悪くなったり悪くなったりを繰り返す
- 嘔吐する
- 血便が出る
- ぐったりして顔色が悪い